

3. (1) 中学では、身長・総丈・袖丈において1%の危険率でB群が優れ、その他の項目においても全頭高・胴囲・腕囲・手首囲を除いて大きい傾向を示す。

(2) 高校では周育項目でA群が、長育項目でB群が優れる傾向を示したが、検定結果では胸囲の他は有意差はなかった。

(3) 示数値の比較においても胸囲：身長、胴囲：胸囲、腰囲：胸囲に僅少の差が中・高校ともに同様の傾向で見られた。

(4) 未経者は今回の資料では少数なので農・非を別けずに検討したが(64名16%)全体に発育のおくれが見られた。

B-56 女子中・高校生の衣服寸法に関する研究
—福島県における計測結果より2.3の
考察—

福島大教育 ○高橋キヨ子
聖和学園短大 雁部 愛
県立郡山女高 甲野藤ウタ

1. 私共は先に1・2報において、福島県と宮城県における女子中・高校生に対し衣服寸法に関係ある部位の計測を行なった結果を文部省保健統計1958年～9年、及び柳沢氏資料と比較し、学校別の傾向を見た。今回は同資料について職業別と未経者についての検討を行なった。

2. 1・2報に示したように被検者を家庭の職業により身体労働の多い農業・工業群(A)とそれ以外の群(B)とに別け、それぞれの平均値、示数値、各部位間の相関係数を比較考察した。また、中学の未経者群につき検討を行なった。